

201101043A

厚生労働科学研究費補助金
(政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業))

医療における情報活用を行う上での
適切な国際疾病分類に関する研究

平成23年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 今村 知明
(奈良県立医科大学 健康政策医学講座)

平成24 (2012) 年3月

厚生労働科学研究費補助金
(政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業))

医療における情報活用を行う上での
適切な国際疾病分類に関する研究

平成23年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 今村 知明

(奈良県立医科大学 健康政策医学講座)

平成24 (2012) 年3月

目 次

I. 総括研究報告書

医療における情報活用を行う上での適切な国際疾病分類に関する研究・・・	1-1
今村 知明、小川 俊夫	

II. 分担研究報告書

なし

III. 研究成果の刊行に関する一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・	1-17
-------------------------------------	------

IV. 研究成果の刊行物・・・・・・・・・・・・・・・・	1-18
------------------------------	------

資 料

国内内科TAG検討会・名簿・・・・・・・・・・・・・・・・	2-1
国内腫瘍TAG検討会・名簿・・・・・・・・・・・・・・・・	2-3
会議議事録・・・・・・・・・・・・・・・・	2-5
腫瘍TAG質問票、意見集約・・・・・・・・・・・・・・・・	2-21
第二回国内内科TAG検討会資料・・・・・・・・・・・・・・・・	2-33

医療における情報活用を行う上での 適切な国際疾病分類に関する研究

研究代表者 今村 知明（奈良県立医科大学健康政策医学講座教授）
研究分担者 小川 俊夫（奈良県立医科大学健康政策医学講座助教）

研究要旨

本研究は、ICD-11 をわが国としてより適切なものとするべく、医療における情報活用を行う上での適切な疾病分類をとりまとめ、WHO へのわが国の対応に資する基礎資料を作成することを目的として実施した。

今年度は、国内内科 TAG 検討会および国内腫瘍 TAG 検討会を組織して委員間で様々な議論を行うとともに、iCAT の開発状況など ICD 改訂に向けた WHO の最新動向を共有した。また、WHO 内科 TAG 対面会議等の国際会議に研究分担者らが出席し、改訂の最新状況を把握する中で、 α ドラフト完成に向けて積極的に意見発信を行うなど、大きな成果を上げた。2012 年 5 月の β フェーズへの移行を控え、改訂案の詰め作業が進められており、関係諸機関と協調しながら作業を進める必要がある。

研究代表者

今村 知明
奈良県立医科大学健康政策医学講座
教授

研究分担者

菅野 健太郎
自治医科大学消化器内科教授
落合 和徳
東京慈恵会医科大学付属病院産婦人科
教授
中谷 純
東京医科歯科大学情報科学センター准
教授
興梠 貴英
東京大学大学院医学系研究科健康医科学
創造講座
特任助教
小川 俊夫
奈良県立医科大学健康政策医学講座
助教

研究協力者

佐野 友美
奈良県立医科大学健康政策医学講座

A. 研究目的

ICD (International Classification of Disease、国際疾病分類) は、死亡統計のみならず患者調査、DPC など医療保険制度、診療情報管理など、広く医療情報全般において活用される重要な分類体系である。現行の ICD は ICD-10 と呼ばれるバージョンで、1989 年に策定されたものである。ICD-10 の導入から 20 年近くが経ち、その後の医療技術や IT 技術の進歩等を踏まえ、現状に即した新たな ICD 改訂が望まれていた。

そこで WHO は、2007 年に現状の ICD-10 から ICD-11 への改訂に向けたプロセスを開始した。

具体的には、WHO 国際分類ファミリー (WHO-FIC: WHO Family of International Classification) ネットワークの下に ICD 改訂のための運営会議 (RSG: Revision Steering Group) を設置し、各分野別専門部会 (TAG: Topical Advisory Group)、及び具体的作業を行う部門としてワーキンググループ (WG: Working Group) も併せて設置された (図表 1)。

今回の ICD 改訂において、わが国より内科 TAG 議長が任命されたことから、WHO の改訂動向を注視し、わが国として内科分野では議論をリードし、意見提示を行う必要がある。さらに、ICD 改訂にあたりわが国の医療の実態を踏まえた、より適切な医療情報を将来にわたって確保するため、関係者間での意見集約を行いながら、わが国に適した改訂案を提示していくことが重要である。

こうした状況を鑑み、本研究は ICD の改訂によるわが国への影響が医療全般に関わることを念頭におき、医療における情報活用を行う上での適切な疾病分類をとりまとめることを目的とする。また、ICD-11 がわが国にとってより適切なものとなるよう、わが国として WHO の検討の場で行うべき対応に資する基礎資料を作成することも目的としている。

B. 研究方法

1. 研究の全体像

本研究は、専門的な見地から既存の ICD 分類に関する問題点について把握を行い、現存するエビデンスを収集したうえで体系的なレビューを実施し、それを元に分類の

改善すべき点について提案を作成するというプロセスで展開した。そのため、第一線の専門家が研究に参画して最新の知見を収集し、必要に応じて調査や分析を行えるように会議体を組織した。同時に提案に関連する WHO の動向についても把握すると共に、積極的な対外情報発信を行った。

本研究においては、医療における情報活用を行う上での適切な疾病分類の構築を、i) 問題点の抽出、ii) 課題の整理、iii) 改善案の提示、iv) WHO の動向の把握の 4 つのサイクルにより実施した (図表 2)。

本年度は、内科系領域や腫瘍系領域における ICD 改訂に際しての問題点や課題を洗い出すと共に、研究から判断された必要性に応じ、検討内容の充実を目指すものとした。さらに、国内の各学会の意見を取りまとめ、ICD-11 の α ドラフト (構造変更の提案) について積極的に意見発信を行う他、実際の α ドラフト作成についても積極的に関与した。これらは、国内内科 TAG 検討会および国内腫瘍 TAG 検討会における議論を踏まえて実施した。

以下にそれぞれの具体的な作業内容を示す。

・問題点の抽出

適切な疾病分類を検討するため現行の ICD を分析し、その問題点の抽出を行った。ICD のユーザーとして、行政関係者及び医療関係者を据え、広く情報の収集を行った。また、改訂作業の実施ツールである iCAT に入力された情報を整理し、ICD 改訂作業の問題点を抽出した。

本年度は、ICD-11 の基本骨格である構造変更 (structural change) の策定、ICD の各項目の領域間の重複・欠損領域の抽出や、ICD にオントロジーの概念を盛り込むための方策についての解決は未だなされておらず、これら問題点や課題の取りまとめを

実施する。

・課題の整理及び改善案の提示

上記で抽出された問題点を分析し整理したうえで、内科分野において構造変更案を提示した。さらに重複・欠損領域の処理方法や、オントロジー概念の ICD への利用などについて検討を実施した。

・WHO の動向の把握

WHO の動向については、行政機関と連携を密にし、WHO における ICD 改訂に関する関連情報の収集を行い、収集した情報の発信と、分析を行った。

2. 国内内科 TAG 検討会

国内での改訂に対する意見をまとめる場として、国内内科 TAG 検討会を設置し、定期的な検討会議を開催して ICD 改訂作業の問題点の抽出や課題整理、改訂に必要な情報の収集や改訂案の提示などを行った。国内内科 TAG 検討会のとりまとめは、研究分担者であり WHO 内科 TAG 議長でもある菅野自治医科大学教授が実施した。

以下は、国内内科 TAG 検討会メンバーとして、意見集約に参加した学会である。

日本内科学会
日本消化器学会
日本呼吸器学会
日本腎臓学会
日本内分泌学会
日本糖尿病学会
日本血液学会
日本循環器学会
日本神経学会
日本リウマチ学会
日本医療情報学会
日本診療録管理学会

今年度の国内内科 TAG 検討会を、計 2 回実施した。以下に日程を示す。

第 1 回：日時 平成 23 年 11 月 14 日

場所 日内会館会議室

第 2 回：日時 平成 24 年 2 月 27 日

場所 日内会館会議室

3. 国内腫瘍 TAG 検討会

腫瘍分野における課題の抽出や改訂への意見のとりまとめの場として、国内腫瘍 TAG 検討会を設置した。とりまとめは、研究分担者の落合東京慈恵会医科大学教授が務め、各専門学会、行政（厚生労働省）等の連携により活動を行った。また、国際的な活動にも積極的に参加した。

以下は、国内腫瘍 TAG 検討会メンバーとして、意見集約に参加した学会である。

日本眼科学会
日本癌治療学会
日本外科学会
日本血液学会
日本口腔科学会
日本呼吸器学会
日本産科婦人科学会
日本耳鼻咽喉科学会
日本消化器病学会
日本小児科学会
日本整形外科学会
日本内科学会
日本内分泌学会
日本脳神経外科学会
日本泌尿器科学会
日本皮膚科学会
日本病理学会

4. 関連する国際会議への出席

国内内科 TAG 検討会、国内腫瘍 TAG 検討会において議論した結果を、関連の国際会議などにおいて報告し、ICD 改訂に向けた議論を行った。

今年度の国際会議への参加は以下のとおりである。

1) WHO 内科 TAG 対面会議

日時：平成 24 年 2 月 8 日～9 日

場所：日本国東京

2) WHO 内科 TAG マネージングエディタ

打ち合わせ

日時：平成 23 年 6 月 27、28 日

場所：オーストラリア国シドニー市

3) 内科 TAG 電話会議

日時：2011 年 9 月 7 日

4) 腫瘍 TAG 電話会議への参加と意見のとりまとめ

日時：平成 23 年 10 月 6 日、12 月 2 日

5) WHO 腫瘍 TAG 対面会議

日時：平成 24 年 3 月 8 日～9 日

場所：フランス国リヨン市

(倫理面への配慮)

本研究においては、疾病分類の分析・検討が研究主体となるため、倫理面への配慮が必要となる事項はない。

C. 研究結果

1. 国内内科 TAG 検討会における議論

今年度は検討会を 2 回開催し、ICD 改訂に係る問題点等を議論するとともに、具体

的な ICD 改訂に向けた作業、および進捗状況の共有等を行った。

各回の具体的な検討内容を以下に示す。

1) 第 1 回国内内科 TAG 検討会

平成 23 年 11 月 14 日に開催された第 1 回国内内科 TAG 検討会の概要は以下の通りである。

a) 各 WG の進捗状況報告

a-1. 呼吸器 WG (橋本委員)

新潟大学の鈴木栄一教授が中心となって構造変更の提案 (α ドラフト)を作成し、国際 WG 議長の Dr. Ingbar に送付したが、その後 Dr. Ingbar からのレスポンスが無い状態である。そのため橋本委員が副議長となり、今後の進展に向けて鋭意努力中である。

a-2. 血液 WG (岡本委員)

アメリカ血液学会、ヨーロッパ血液学会、および日本血液学会が分担して、血液に関する ICD-O をもとに α ドラフトが作成された。そのさいに、ICD-O では腫瘍として扱われていなかった骨髄系腫瘍、リンパ系腫瘍、MPD、MDS は除いて実施した。造血器腫瘍については、2008 年の WHO ブルックを参考にし、現在検討中である。腫瘍 TAG との調整に関しては、ブルックを用いることで、腫瘍 TAG と血液 WG の構造変更が大きく異なることはないと考えられる。また、病理 TAG との整合性も同様に考えている。以上より、 α ドラフトはほぼ完成したものと考えている。

a-3. 消化器 WG (三浦委員)

現在、肝・胆・膵 WG と共同で作業を進めている。 α ドラフトはほぼ完了し、ICD-11

構築プラットフォームである iCAT に入力する段階だが、いまだ修正点が多く、さらに WHO からの様々な要望も考慮して修正中である。なお、疾病部位に関する情報の入力については調整中である。重複領域については調整中である。

今後は、国内 WG で作成した α ドラフトの最終版を国際 WG メンバーに回覧し、彼らの承認を得た後に構造変更の提案を iCAT に入力する予定である。さらに、疾病の定義などコンテンツの作成に取りかかりたい。

a-4. 肝・胆・膵 WG (名越委員)

国際 WG 議長の Dr. Keeffe が急逝され、オーストラリアの Dr. Farrell が後任に任命された。肝・胆・膵では α ドラフトが完成し、内科 TAG マネージングエディタによって iCAT への入力が進んでいるが、一部誤りが見られたので、現在修正中である。重複領域については、Rare Disease TAG などと調整を実施中である。

a-5. 内分泌 WG (糖尿病分野) (田嶋委員)

国際 WG 副議長の Dr. Saudek が急逝されたことから、2011 年 2 月より田嶋委員が副議長として任命され、鋭意作業を実施している。糖尿病分野については、日本糖尿病学会において専門家からの意見集約を行い、 α ドラフトはほぼ完成した。現在、iCAT への入力のための確認作業が内科 TAG マネージングエディタによって行われており、作業が終了し次第、入力開始される予定である。今後、疾病の定義を含めたコンテンツの作成に取りかかる予定である。また他の TAG/WG との重複領域に関しては、腎臓 TAG や眼科 TAG との調整が必要で、さらに神経 TAG や小児科 TAG との調整が必要と考えられるが、これらの調整は未だ実

施していない。今後コンテンツの作成と入力に WG 直属のマネージングエディタが必要であることから、その調整を始めたい。

a-6. 循環器 WG (渡辺委員、興梠委員)

循環器 WG の α ドラフトの作成作業は、やや遅れているのが現状であるが、国内循環器関連 14 学会から 31 名が参加して作業を実施した結果、原案が完成した。この原案は国際 WG に提出し、現在国際 WG で検討中である。国際 WG では、循環器分野の各章の分担が決まり、定期的に電話会議などにより、その作業方法などについて議論を行っている。WHO の予定によると、 α ドラフトの構築作業は 2011 年末までで完了とあるが、循環器 WG ではこの期日までの完成は厳しいと思われ、2012 年 2 月の内科 TAG 対面会議までに α ドラフトを完成したい。

a-7. リウマチ WG (針谷委員)

リウマチ WG の α ドラフトは完成しており、内科 マネージングエディタによる内容確認と iCAT への入力もほぼ完了している。重複領域に関しては、筋骨格系 TAG との調整は順調であり、ほぼ整合性が取れている。また、Rare Disease TAG との重複領域の調整は、現在実施中である。皮膚科 TAG との重複領域については、現状を維持する方針で調整を行う予定は無い。今後、コンテンツの作成と iCAT への入力に取りかかるが、そのための人材と資金の確保が難しいのが現状である。

b) HIM-TAG からの報告 (今井委員)

HIM-TAG では、本年度電話会議を 5 回実施した。電話会議において、構造調整の提案の遅れなどから、 α ドラフトを一般に公開する β フェーズの開始は、本来の 2011 年

から2012年と1年遅らせることになったと発表された。

HIM-TAGでは、iCATのアップデートを中心に作業を実施しているほか、伝統医学領域のiCAT-TMの開発や、βフェーズで使用するシステムの構築などについて検討を実施している。今後、βフェーズに移行する前に編集プロセスを根本的に考え直す必要があると考えており、またSNOMED-CTとの連携についても議論している。

ICD-11におけるコンテンツモデルには、もともとオントロジーの概念を適用する計画であったが、その実施可能性についてはいまだ議論されており結論は出ていない。コンテンツの記入方法については、速やかに決定すべきと思われるが、いまだ決定していない部分が多いので、今後各WGで実施するであろうコンテンツの作成と入力、これらのHIM-TAGの議論の様子を見ながら慎重に実施すべきと考えられる。

c) 腫瘍TAGからの報告（西本委員）

腫瘍TAGでは、副議長が再選出されるなど組織変更があったため、2011年10月に電話会議が開催され、現状の確認と今後の活動方針などについて話し合われた。そのさいに、ICD改訂に関して腫瘍TAGメンバーの意見集約を目的として、メンバーに質問票を配布することになった。今後の腫瘍TAGとして、電話会議などによりαドラフトについて基本方針を固める予定である。

d) WHO-FIC 会議報告（厚生労働省・瀧村室長）

2011年10月29日から11月4日までの日程で、南アフリカ・ケープタウンで開催されたWHO-FIC年次会議に参加した。こ

の会議で議論された議題のうち、ICD改訂に関与する部分について報告したい。

まず、WHOのDr. UstunによってICD-11改訂に用いられる「αブラウザ」が関係者に公開され、主な機能が説明された。

次に、RSGが30人以上の組織になったためにSEG（RSG Executive Committee）というグループを新たに設置し、ここで重要なことは決めていくことがDr. Chuteより発表された。

今後のICD-11改訂作業は、2012年5月にβドラフトが発表され、2014年までフィールドトライアルが実施される予定である。さらに、2015年のWHO年次総会にて承認され、ICD-11の実用化がスタートする予定である。なおαドラフトについては、2012年3月にラスベガスで開催される会議で最終版が決定される予定である。

今後の議論すべき課題は、コンテンツの入力と、リニアライゼーションと呼ばれている検索条件によるICD構造の柔軟性の持たせ方などについてである。さらに、ICD-11の円滑な導入に向けた各国の方策についても今後検討が必要である。

e) 第4回内科TAG対面会議について（厚生労働省・鐘ヶ江補佐）

第4回内科TAG対面会議は2011年4月開催の予定であったが震災の影響で延期され、2012年2月8、9日に開催予定である。対面会議では、WHOのDr. UstunからICD改訂についての現状説明があるほか、各WGからαドラフト作成の現状が報告される予定である。また、HIM-TAGのDr. Musenと電話会議を行い、iCATの構築状況などについて議論を行う予定である。なお、今回の対面会議の開催費用は、日本の各学会のご協力のもとに確保した。各WGにおいては、内科TAG対面会議までにαドラフトを

完成させ、内科マネージングエディタの確認の上で iCAT への入力を完了されたい。

また、WHO に申請していた国際分類研究協力センターの承認が得られたことが報告された。

2) 第 2 回国内内科 TAG 検討会

平成 24 年 2 月 27 日に開催された第 2 回国内内科 TAG 検討会の概要は以下の通りである。

a) 各 WG の進捗状況報告

各 WG より先日の WHO 内科 TAG 対面会議で発表された内容をもとに、現状報告が行われた。なお、各報告で用いられたスライドは本報告書内の参考資料 (2-23 頁) を参照されたい。

a-1. 消化器 WG (三浦委員)

消化器領域では α ドラフトは完成し、iCAT への入力もほぼ完了しているが、小規模の修正を繰り返している。現在、日本国内の ICD 関連委員 16 人に各疾病の定義の作成を、3 月を目処に作成していただいている状態である。

重複領域の調整については、肝・胆・膵 WG と会合を開いているほか、Rare Disease TAG および腫瘍 TAG と協議中である。なお、腫瘍については重複が非常に多いことから、積極的に腫瘍 TAG との協議を重ねたいと考えている。なお、国際 WG に小児消化器の専門家がないことが問題である。また、感染症 TAG が組織されていないことから、消化器領域の感染症についても分担する可能性もあり、それによってメンバーの負荷が増大する可能性もある。今後は来年中に肝・胆・膵 WG とで対面会議を開催し、今後の作業などについて議論をしたい

と考えている。

a-2. 肝・胆・膵 WG (名越委員)

肝・胆・膵 WG では、新たに議長に就任した Dr. Farrell より α ドラフトの修正指示があり、現在作業中である。また定義の作成にも取りかかっており、腹膜炎などから順次作業を実施しているが、定義の作成の担当などについては今後協議が必要である。また、腫瘍 TAG などとの重複領域の交渉はまだあまり出来ていないのが現状である。

Dr. Keefe がお亡くなりになったことで、米国消化器病学会を代表するメンバーが不在であるが、現在代わりの方を WHO に推薦している。

a-3. 内分泌 WG (田嶋委員)

内分泌分野については、iCAT への入力は完了した。内容は ICD-10 からの大きな変更がないのが現状であるが、今後 Rare Disease TAG や小児科 TAG、さらに内分泌 WG の他の委員から意見が出れば、交渉が必要になると思われる。糖尿病代謝分野については metabolic disorders と glucose regulation についてはほぼ iCAT への入力が完了している。栄養 TAG が組織されたので、該当部分は栄養 TAG に渡した。その他の重複領域に関しては、小児科 TAG、Rare Disease TAG との交渉が必須であるほか、眼科 TAG や腎臓 WG との交渉も必要と考えている。

今後は国内の関連学会のご協力をいただいて定義の作成と入力作業に取りかかる予定であるが、対面会議も計画したいと考えている。WG マネージングエディタについても確保したいと考えている。

a-4. リウマチ WG (針谷委員)

リウマチ WG では iCAT への入力は完了しており、現在定義の作成に取りかかっている。重複領域については、筋骨格系 TAG

との連絡は密に行っているが、小児リウマチに関しては小児科 TAG との交渉が必要である。Rare Disease TAG や血液 WG、皮膚科 TAG からの交渉もほぼ完了し、リウマチ WG の意見が採用される見通しである。今後は WG マネージングエディタの確保を検討したい考えている。

a-5. 血液 WG (岡本委員)

血液 WG では、腫瘍に関する疾患が多いことから腫瘍 TAG との調整を実施しているが、その結果、2008 年に WHO による分類と定義が最も妥当であろうとのコンセンサスが得られた。α ドラフトの iCAT への入力は今進行中である。マネージングエディタの確保については、米国、欧州、日本の主要 3 学会で費用を捻出して、疾病の定義の作成と入力の段階に間に合うように手配する計画である。今後は Rare Disease TAG との調整を予定している。

a-6. 呼吸器 WG (近藤委員)

呼吸器 WG では、α ドラフトに関する作業の役割分担もまだ十分に議論されておらず、検討し始めたところである。また、α ドラフトの原案はわが国主導で作成したが、Dr. Ingbar のところで止まっており、国際 WG での議論がなされていないのが現状である。したがって、iCAT への入力や定義の作成、耳鼻科 TAG や腫瘍 TAG との重複領域の調整などは未実施である。このような現状であるため、今後、体制の根本的な立て直しが急務である。

a-7. 循環器 WG (興梠委員)

循環器 WG では、わが国で α ドラフトの素案を作り、国際 WG でその素案をもとに検討中である。α ドラフトが完成し次第 iCAT への入力に取りかかる予定であり、このような状況なので定義の作成には未だ至

っていない。なお、今後の進捗などに付いては、3 月 1 日の電話会議で議論される予定である。なお、日本循環器学会からは、本プロジェクトについては認識していただいております、必要であれば予算計上についても相談することが可能である。

b) HIM-TAG からの報告 (中谷委員)

HIM-TAG では電話会議を中心に活動を実施している。先日の電話会議での議論では、β フェーズに向けて SNOMED-CT とのさらなる連携が必要だと認識され、HIM-TAG 内に common anatomy グループを立ち上げられた。わが国からは、遺伝情報のサブ構造をデザインして完成させ、XML 化して提案中である。

c) 菅野議長より総括

iCAT への入力は、できれば 5 月の β フェーズへの移行までになるべく完璧にしておいていただきたい。特に、循環器 WG、呼吸器 WG では作業が遅れており、わが国の学会案を中心に、今後の進捗に期待したい。

3. 国際会議への出席

(1) WHO 内科 TAG 対面会議

第 4 回 WHO 内科 TAG 対面会議が、東京にて 2012 年 2 月 8、9 日に開催された。本研究班として、当該会議に出席して ICD-11 改訂動向を把握し、収集された情報を元に分析を実施した。分析の結果として、ICD 分類をわが国で実際に活用することを念頭においた議論が重要と考えられた。

(2) 内科 TAG マネージングエディタとの打ち合わせ

2011年6月27、28日にオーストラリア・シドニーにて、内科 TAG マネージングエディタである Ms. Rust と Ms. Cumerlato とのミーティングを持ち、今年度のマネージングエディタとしての作業内容や活動資金などについて話し合いをし、大筋で合意を得ることができた。この合意をもとに、内科 TAG における各 WG の α ドラフトの構築と iCAT への入力、内科マネージングエディタを中心に実施された。図表 4 に内科マネージングエディタが実施した α ドラフト作成の進行管理の一例を示す。

また、同時期にオーストラリア政府主催の会議に参加していた WHO の Dr. Ustun と話し合いを持ち、今後のスケジュールなどについて確認をした。

(3) 内科 TAG 電話会議 (2011年9月7日開催)

電話会議の冒頭に、8月に急逝された肝・胆・膵 WG の議長 Dr. Keeffe に IM-TAG 菅野議長が追悼の意を表され、全員で黙祷を捧げた。なお、肝・胆・膵 WG 議長の後任としては、Prof. Geoff Farrel が推薦され、IM-TAG 事務局がコンタクトをとっている。

a) 各 WG の進捗確認

a-1. 循環器 WG

循環器 WG では、重複領域の検討のため、小児科 TAG の循環器領域と Rare Disease TAG との電話会議を開催した。この重複領域に関しては両 TAG の同意が得られたことから、定義などコンテンツの入力に移行する予定である。小児以外の循環器領域で

は電話会議が開催され、担当分野の割当について話し合われた。

a-2. 消化器 WG

消化器 WG では、構造変更の提案の iCAT への入力はほぼ完了した。重複領域に関しては、Rare Disease TAG との重複領域に関する意見交換も完了し、お互いの対応範囲を確認したほか、小児科 TAG や腫瘍 TAG との意見交換も実施している。なお、感染症領域の重複に関しては、WHO によると感染症 TAG がいまだ組織されていないため、まずは TAG の組織形成を早急に実施する予定とのことである。消化器 WG としての次のステップは、定義を含めたコンテンツの入力である。

a-3. 肝・胆・膵 WG

肝・胆・膵 WG では構造変更の提案はほぼ完了し、Rare Disease TAG との重複領域についても意見交換が行われ、ほぼコンセンサスが得られている。肝・胆・膵 WG としての次のステップは、定義を含めたコンテンツの入力である。

a-4. リウマチ WG

リウマチ WG における構造変更の提案については、現在 WG 議長の Dr. Kay によって最終確認が実施されている。また、構造変更の提案は iCAT にほぼ入力済みである。筋骨格系 TAG との重複領域に関する意見交換も行い、コンセンサスが得られた。なお、多臓器疾患 (multisystem disease) の分類に関しては章立てが難しい面もあり、全体の動向を注視している。

a-5. 内分泌 WG

内分泌 WG では、構造変更の提案を行い、国内外の関連学会に意見収集を行っているところである。iCAT への入力も近日中に開

始できると思われる。また、定義を含めたコンテンツの作成に取りかかる予定である。なお、重複領域に関しては、Nutrition TAG と Rare Diseases TAG との間で意見交換を実施している。

a-6. 血液 WG

血液 WG の構造変更の提案に関する進捗は本電話会議では報告されなかった。事務局で把握している進捗としては、腫瘍 TAG との意見交換が 6 月にロンドンで実施されたとのことである。また、Rare Disease TAG との重複領域に関する意見交換も実施されている。今後、より効率的な意見交換の実施のため、血液 WG と腫瘍 TAG の両方に関与するようなメンバーを新たに選出する提案がなされている。

a-7. 腎臓 WG

腎臓 WG では、構造変更の提案は完了しており、iCAT への入力も完了している。重複領域の調整については、Rare Diseases TAG との間で現在検討中である。腎臓 WG としての次のステップは、定義を含めたコンテンツの入力である。

a-8. 呼吸器 WG

呼吸器 WG では、適用範囲に関する電話会議を 6 月に実施したが、その後の進捗については特に報告がないのが現状である。重複領域については、小児科 TAG と Rare Disease TAG からの問い合わせがあったことから、早急に対応すべきと考えられる。

b) WHO からの現状報告

iCAT への α ドラフトの入力の最終締め切りを 2011 年 12 月末と設定した。また、ICD-11 α ブラウザが 9 月より公開される予定である。このブラウザで、構造変更の構

築の進捗が一目で分かるようになっている。なお、ICD-11 公開の期日には変更は無く、2015 年の予定である。

c) 第 4 回内科 TAG 対面会議

東日本大震災で延期になった第 4 回内科 TAG 対面会議を、2012 年 2 月 8、9 日に国連大学（東京都渋谷区）で開催することが発表された。招待状は追って各 WG の議長とマネージングエディタに送られる予定である。

(4) WHO 腫瘍 TAG 電話会議 (2011 年 10 月 6 日、2011 年 12 月 2 日)

2011 年 10 月に腫瘍 TAG の副議長の変更があったことから、同 10 月 6 日に電話会議が開催された。会議においては、現在の腫瘍 TAG の状況について説明があったほか、継続して検討すべき事項であった他の TAG/WG との連携について、OECD、ILO、UICC、FIGO、IACR 等の関連領域への影響評価、「腫瘍の拡がり」「再発」などの概念の表現方法、水平的 TAG としての腫瘍 TAG の分類軸などについて話し合わせ、これらについて意見集約をはかることとなった。

そのため、事務局で別添の質問票が腫瘍 TAG メンバーに配布されたことから、国内腫瘍 TAG 検討委員会でも質問票を入手して国内メンバーに配布し、意見集約を行い WHO に提出した。意見集約の結果も別添質問票に添付したので参照されたい (2-21 頁)。

また、2012 年 3 月の対面会議に先立ち、ドイツからの提案事項が国際メンバー間で共有され、それに対する意見提出が求められたことから、当研究班として意見集約を実施した。この結果も別添質問票と集約結果を参照されたい (2-21 頁)。

(5) WHO 腫瘍 TAG 対面会議 (2012 年 3 月 7、8 日)

これまでに電話会議を中心に議論された点を含め、各 TAG や WG によって構築され iCAT に入力された α ドラフトを用いて議論を行う予定である。

D. 考察

本研究により、国内の各関連学会の意見を集約し取りまとめたことで、各 WG の α ドラフトの作成と完成に大きく寄与した言えよう。特に内科分野の多くの WG では、わが国の各関連学会が α ドラフトの原案を作成して国際 WG の同意を得るなど、ICD 改訂のまさに主体として貢献したことは特筆すべきである。また、各 WG 間の重複領域について考察を実施し、作業の進捗状況や今後の調整、情報交換などを実施した。さらに、WHO 内科 TAG 対面会議など国際会議への参加により、ICD 改訂の基本コンセプトや改訂スケジュールなどについて情報収集を行い、今後の具体的なスケジュールを委員間で共有した。また、WHO の ICD 改訂に関する動向を把握しつつ、改訂のための分類枠組みについて検討した。さらに、これらの情報を学会などで発信した。

本研究では、国内内科 TAG 検討会、国内腫瘍 TAG 検討会を組織し、国内意見の集約や、WHO の改訂に向けた最新の動向の共有を行ってきた。さらに、国際会議などに参加することで、改訂に向けた各国の最新状況を把握しつつ、わが国としての方針や提案を伝え、大きな成果を上げてきた。

特に、 α ドラフトの作成に当たっては、当研究班はわが国の意見を取りまとめたのみならず、WHO 内科 TAG に対して積極的に意見発信を行い、その進捗に大きく貢献した。

これらの活動に加え、改訂に向けたスケジュール管理を実施し、WHO や WHO 内科 TAG メンバー、内科 TAG マネージングエディタとの情報交換を行うことで、その進捗管理の支援を行うなど、WHO 内科 TAG の作業進捗のまさに中心として機能したといえよう。このように国内の意見集約を行い、各種国際会議へ出席して議論をリードしたことや、スケジュール管理支援を行ってきたことは、今後の ICD 改訂や日本のプレゼンス向上に関して重要な意義を持つものである。

2012 年 2 月 8、9 日に東京で開催された第 4 回 WHO 内科 TAG 対面会議においては、本研究の成果を世界に向けて発信できたと考えられる。特に、内科分野の各 WG で構築された α ドラフトの進捗を確認したうえで、本年 5 月に開始される予定の β フェーズにおける活動などについて積極的な意見交換が行われた。さらに、これから各 WG で実施されるコンテンツの入力について、その具体的な方法や入力内容の検討が行われ、さらにコンテンツ入力のためにも各 WG におけるマネージングエディタの必要性が確認された。

一方、今年度の課題は、各 WG からの α ドラフト、すなわち構造変更の提案が固まってきたために、 β フェーズに向けて疾病の定義を含めたコンテンツ作成と入力について、より具体的な検討が必要になったことである。特に、これまでの iCAT への入力は内科 TAG マネージングエディタの 2 人に頼ってきたが、今後はそれぞれの WG 専属のマネージングエディタが iCAT での作業を行うことが予想され、WG としての組織を再考する必要があると考えられる。今後ますます各 WG メンバーや国内での検討メンバーとの間での情報共有や進捗管理が必要になってきたといえよう。なお、改訂スケジュールに対する作業の進捗は依然と

して遅れ気味であり、資金不足や手続きの遅れから WHO 内科 TAG の各 WG メンバーから様々な意見や不満が寄せられているのが現状であり、今後も関係者間のコミュニケーションを緊密にし、進捗管理を行っていくことが必要と考えられる。

本研究の成果は、「医療における情報活用を行う上でのより適切な疾病分類体系の構築」に加え、WHO の ICD 改訂に対するわが国としての適切な対応が可能となることが挙げられる。今般の ICD の改訂はわが国の医療全般に関わることから、その影響は非常に大きい。わが国の実態を踏まえた、より適切な医療情報を将来に渡って確保するためには、改訂の議論と具体的な作業に参加し、その動向を踏まえて必要な意見提示を行っていかなければならない。また今般の改訂に当たり、わが国は ICD-11 への改訂に向けて主導的な立場をとるためにも、国内の意見を集約して分析し、関係者間の調整を行いつつ意見集約を行い、改訂案を構築し提言していくためには、本研究は必要不可欠である。

こうした成果より、特に疾病に関する医療における情報の質の向上を実現し、厚生統計、医療保険制度、EBM に基づく各種施策等の質の向上が図られ、最終的には、医療の質の向上に貢献する研究であるといえる。

E. 結論

今年度は、国内内科 TAG 検討会および国内腫瘍 TAG 検討会を開催して委員間で様々な議論を行うとともに iCAT の開発状況など、ICD 改訂に向けた WHO の最新動向を共有した。また、WHO 内科 TAG 対面会議など国際会議に研究分担者らが出席し、改訂に向けた各国の最新状況を把握する中

で、日本から積極的に提案を行い、大きな成果を上げた。

本研究は、国内での検討体制の確立や最新情報の共有、ICD 改訂における日本の国際的なプレゼンス向上については概ね目標を達成したといえよう。しかしながら、αドラフトの完成期限である 2012 年 3 月末に少なくとも 2 つの WG では間に合わない可能性があり、進捗管理という面では課題を残したと言えよう。今後、さらなる議論および緻密なスケジュール管理が必要である。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

佐野友美、小川俊夫、菅野健太郎、今村知明. 国際疾病分類 ICD-11 改訂の現状と展望. 医療情報学論文集. 2011 Nov; 31 (suppl.): 817-820.

2. 学会発表

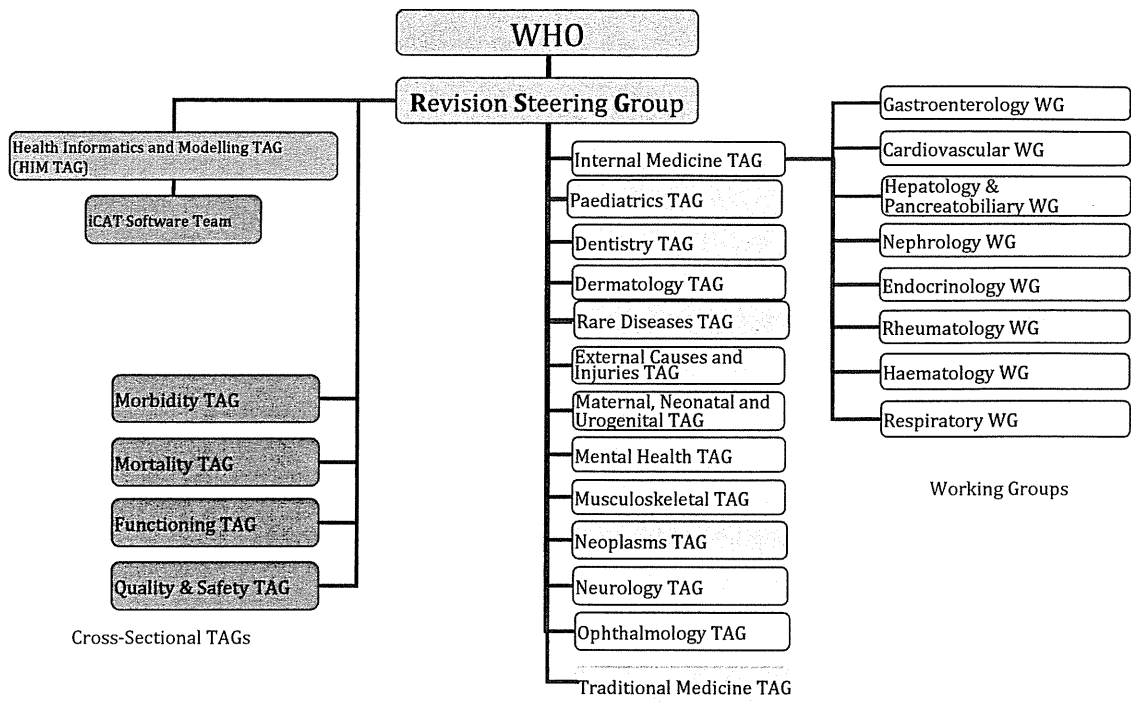
佐野友美、小川俊夫、今村知明. 国際疾病分類 ICD 改訂の進捗状況：構造変更の作成について. 第 70 回日本公衆衛生学会総会, 2011 年 10 月 19 日～21 日 (秋田県、秋田県民会館、秋田キャッスルホテル)

佐野友美、小川俊夫、菅野健太郎、今村知明. 国際疾病分類 ICD 改訂の現状と展望. 第 31 回医療情報学連合大会, 2011 年 11 月 21 日～23 日 (鹿児島県、鹿児島市民文化ホール)

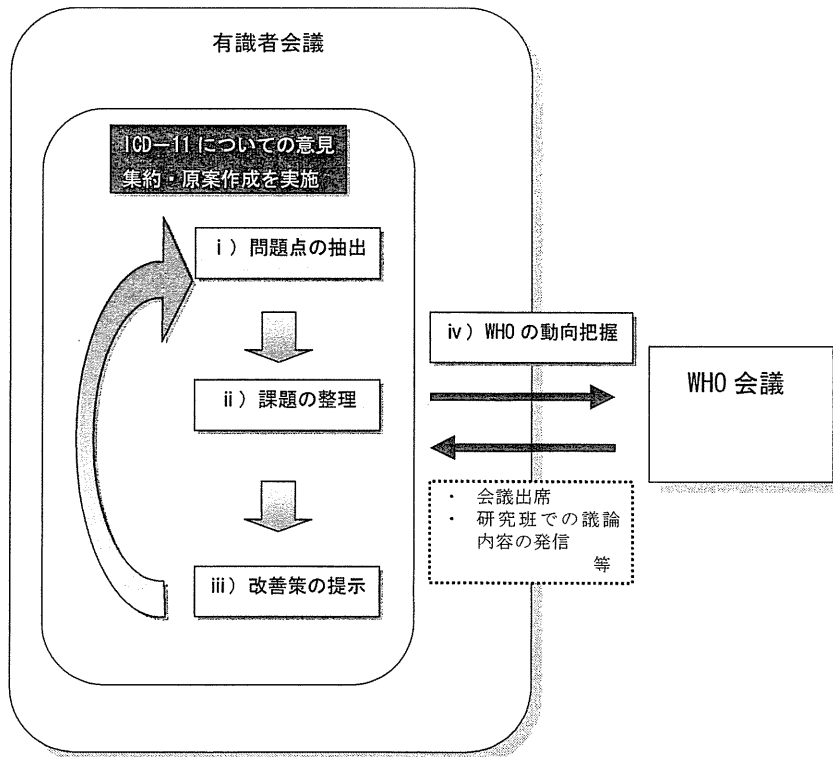
H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

図表 1 ICD-11改訂プロセスの構造

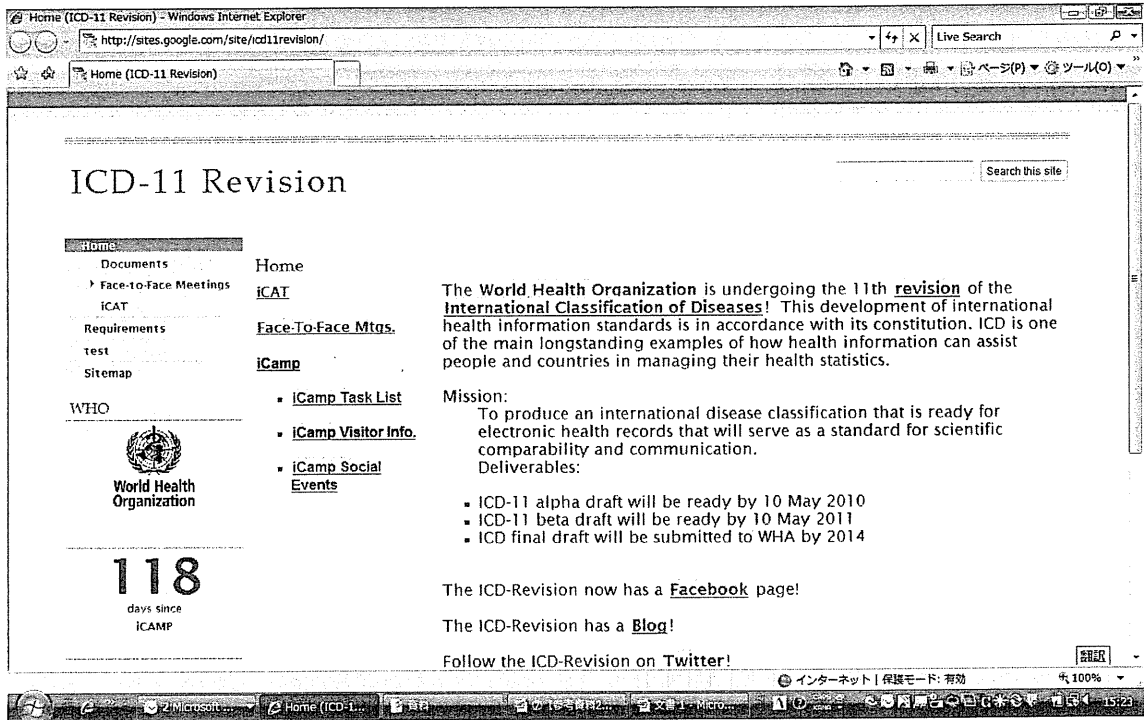


図表 2 研究スキーム

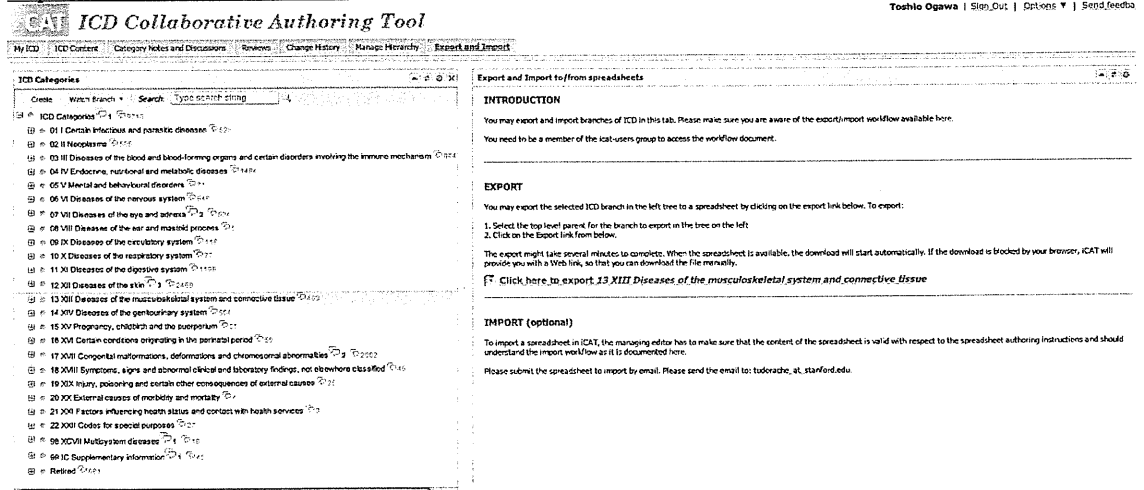


図表 3 iCAT

<http://sites.google.com/site/ICD11revision/>



<http://iCATdemo.stanford.edu/>



Progress report for Cardiovascular Working Group

Period	Structural change proposals	iCAT – structural changes	Content model attributes	iCAT – content model	Overlap issues	Other material	Teleconferences
1.7.11 – 6.9.11	<p>Congenital/Paediatric</p> <p>Draft structural change proposal from Congenital group received. Overlap with Rare Diseases so teleconference organised to sort out responsibility etc. Agreed that CV WG would take the lead in this area, with input/discussion from Rare Diseases TAG. Expecting new draft to be sent to RD in September for comment</p> <p>Adult</p> <p>Draft structural change proposal from Japanese cardiovascular societies received on 16.5.11. topic areas allocated amongst members. CV WG currently reviewing proposal, with teleconference on work progress planned for late September. Editorial information checked and updated.</p>	<p>No structural changes entered into iCAT within this reporting period</p> <p>No changes entered into iCAT within this reporting period</p>	<p>The CV WG, through the ISNPCHD, will be responsible for completing the definitions and other content model attributes</p> <p>No material received from WG within this r</p>	<p>Some definitions have been added to iCAT, against existing codes or those added by Rare Diseases</p> <p>No changes entered into iCAT within this reporting period</p>	<p>Collaboration with Rare Diseases on overlap issues. New draft of proposal to be forwarded to Paediatric TAG when finalised.</p> <p>Neurology TAG – cerebrovascular diseases. Gastroenterology – haemorrhoids & oesoph varices</p>	<p>Minutes from teleconference.</p> <p>Minutes from teleconference. Re-formatted proposal and added areas of responsibility</p>	<p>20.7.11: Cardiovascular WG and Rare Diseases TAG</p> <p>14.7.11: Teleconference with CV WG to organise areas of responsibility</p>

Progress report for Endocrinology Working Group

Period	Structural change proposals	iCAT – structural changes	Content model attributes	iCAT – content model	Overlap issues	Other material	Teleconferences
1.7.11 – 6.9.11	<p>Draft proposal for structural change received from Endocrine WG 21.4.11. Further input from external experts during May/June. Awaiting confirmation from Dr Tajima re ratification from Endo WG on final proposal for iCAT entry.</p>	<p>No changes entered into iCAT within this reporting period. Editorial information checked and updated.</p>	<p>No material received from WG within this reporting period</p>	<p>No changes entered into iCAT within this reporting period</p>	<p>Nutrition WG – obesity disorders. Rare Diseases – metabolic disorders</p>	<p>Document prepared for Nutritional WG</p>	

Progress report for Gastroenterology Working Group

Period	Structural change proposals	iCAT – structural changes	Content model attributes	iCAT – content model	Overlap issues	Other material	Teleconferences
1.7.11 – 6.9.11	<p>Revised proposal and questions received from Dr Miura on 8.7.11.</p>	<p>iCAT updated with most recent code hierarchy changes. Editorial information checked and updated.</p>	<p>No material received from WG within this reporting period</p>	<p>No changes entered into iCAT within this reporting period</p>	<p>Rare diseases – email correspondence on overlap areas. Current proposal forwarded to Paediatric TAG. Neoplasm TAG – material to be forwarded</p>	<p>All questions and comments from Dr Miura answered and returned.</p>	

Progress report for Haematology Working Group

Period	Structural change proposals	iCAT – structural changes	Content model attributes	iCAT – content model	Overlap issues	Other material	Teleconferences
1.7.11 – 6.9.11	<p>First draft of structural change in iCAT in 2010. Awaiting feedback from WG re latest changes and harmonisation with ICD-O.</p>	<p>No structural changes entered within this reporting period. Editorial information checked and updated.</p>	<p>No material received from WG within this reporting period</p>	<p>No changes entered into iCAT within this reporting period</p>	<p>Rare Diseases – Haem WG in agreement with changes. ICD-O – seeking further input</p>		

Progress report for Nephrology Working Group

Period	Structural change proposals	iCAT – structural changes	Content model attributes	iCAT – content model	Overlap issues	Other material	Teleconferences
1.7.11 – 6.9.11	No further changes on code hierarchy received.	Neoplasms sections updated and added to iCAT. Editorial information checked and updated.	No material received from WG within this reporting period	No changes entered into iCAT within this reporting period	Rare Diseases – material on cystic kidney disease added to Redmine for discussions. No feedback.		

Progress report for Hepatobiliary Working Group

Period	Structural change proposals	iCAT – structural changes	Content model attributes	iCAT – content model	Overlap issues	Other material	Teleconferences
1.7.11 – 6.9.11	Questions sent back to WG on latest proposal in July. Response received in August.	Latest changes added to iCAT in July. Further feedback to be entered in September. Editorial information checked and updated.	No material received from WG within this reporting period	No changes entered into iCAT within this reporting period	Rare diseases – congenital and hereditary conditions. Dialogue continuing		

Progress report for Respiratory Working Group

Period	Structural change proposals	iCAT – structural changes	Content model attributes	iCAT – content model	Overlap issues	Other material	Teleconferences
1.7.11 – 6.9.11	First draft of proposal from Japanese Respiratory Society received January 2011. Awaiting feedback from WG on division of topic areas and next steps.	Higher level code structure entered. Editorial information checked and updated.	No material received from WG within this reporting period	No changes entered into iCAT within this reporting period	Paediatric TAG – email correspondence on initial work Rare diseases – proposal for congenital anomalies received and sent on to WG chairs for comment.		29.6.11: Division of areas of responsibility for structural change proposal

Progress report for Rheumatology Working Group

Period	Structural change proposals	iCAT – structural changes	Content model attributes	iCAT – content model	Overlap issues	Other material	Teleconferences
1.7.11 – 6.9.11	Latest proposal received April 2011. Feedback/questions sent to WG late May. WG chairs currently working on response.	No structural changes entered within this reporting period. Editorial information checked and updated.	Content model attributes for autoinflammatory diseases received	Content model attributes for autoinflammatory diseases entered into iCAT	Rare Diseases – discussion re location of autoinflammatory diseases. MSK TAG – decisions reached re areas of responsibility.	Two proposals prepared for ICD-10 updates in 2011	13.6.11: MSK TAG and Rheum WG to sort out areas of overlap.

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
佐野友美、小川俊夫、 菅野健太郎、今村知明	国際疾病分類ICD-11 改訂の現状と展望	医療情報学 論文集	No; 31 (suppl.)	817-820	2011